宗教文化研究所香港訪問調査について

永岡 崇

NAGAOKA Takashi

南山大学国際化推進事業（第 2 期）による「東アジアのキリスト教」研究のため、2014 年 2 月 17 日（月）から 20 日（木）までの 4 日間の日程で、香港にて現地調査を行うとともに、香港のキリスト教研究機関との情報交換を行った。奥山倫明所長をはじめ、ジェームズ・ハイジック名誉教授、ポール・スワンソン、金承哲第一種研究員、日沖直子客員研究所員、長澤志穂非常勤研究員、永岡崇研究員の 7 名が参加した。主な内容は以下のとおりである。

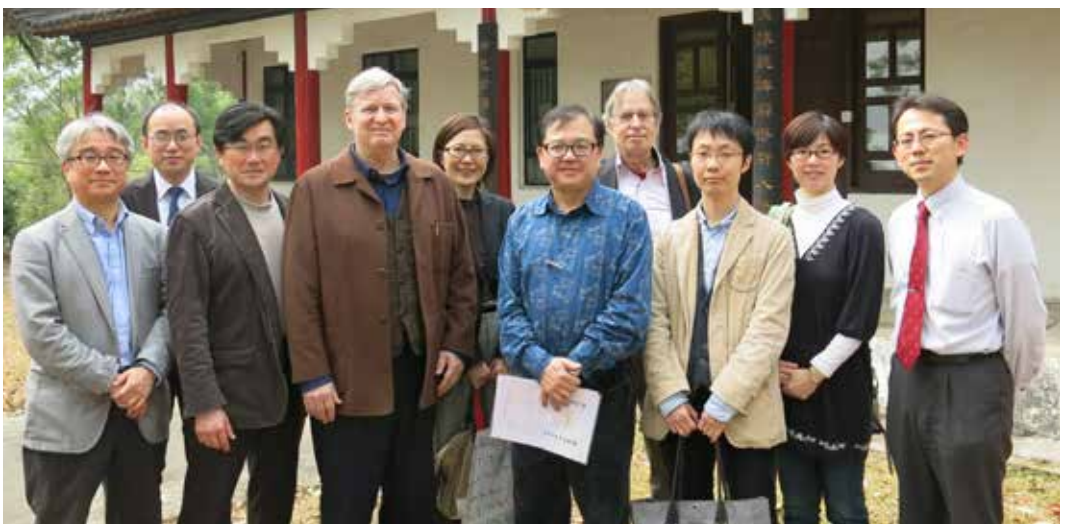
2 月 17 日

張政遠 (Cheung Ching-yuen) 香港中文大学講師の協力のもと、同大学にて梁元生教授と懇談した。同教授からは、中国本土および香港におけるキリスト教の歴史と現状、またアジアのキリスト教をめぐる研究の動向などについて、有益な知識を得ることができた。懇談後、張講師の案内で、同大学のキャンパスを見学した。

2 月 18 日

午前は、ハイジックと日沖が聖神修院 (the Holy Spirit Seminary) を訪問し、他の者は道教寺院の黄大仙祠で香港の民間信仰の現状を見学した。

午後は、香港中文大学栄誉副研究員の松谷曄介博士と合流し、東洋と西洋、またキリスト教と他宗教の対話に力を注いでいる道風山の漢語基督教文化研究所を訪問した。楊熙楠 (Yeung Heenam, Daniel) 所長の案内に



よって道風山の諸施設を見学したあと、同研究所でワークショップを行った。林子淳 (Jason Lam) 博士 が “Christian Studies in Contemporary China” と題して漢語基督教文化研究所の活動を紹介し、スワンソンと金が南山宗教文化研究所の活動および日本におけるキリスト教研究の動向についてそれぞれ報告した。ワークショップには香港中文大学の大学院生なども参加し、活発な議論が交わされた。

2 月 19 日

午前は、香港浸会大学の朱益宜 (Cindy Yik-yi Chu) 教授を訪問し、彼女が所属する David C. Lam Institute for East-West Studies が進めている、現代中国におけるキリスト教をめぐる研究プロジェクトなどについて説明を受けた。当研究所の「東アジアのキリスト教」研究プロジェクトとも通じる関心であり、意義深い訪問であった。

午後は前日に続いて松谷博士と合流し、香港聖公会大主教の神学・歴史研究顧問を務める Philip Wickeri 博士と懇談した。Wickeri 博士は、現代中国においてキリスト教がどのように成長し、どのような役割を担っているのか、また神学の多様なあり方などについて幅広く語ってくれた。

Wickeri 博士のもとを辞去した後、松谷博士とともに、東アジアのキリスト教をめぐって国際的な共同研究を行うことの重要性と困難について議論し、香港調査全体の成果と課題を確認した。

今回の香港調査では、中華圏におけるキリスト教の状況を知ることができたことに加え、さまざまな研究者・機関とのつながりを築くことができた。国際化推進事業（第 2 期）を遂行するための調査として、非常に充実したものであったといえる。

ながおか・たかし
南山宗教文化研究所研究員